十八史略

管鮑之交　―訓読―

【第一段】斉は姜姓なり。桓公に至りて諸侯に覇たり。五覇は桓公を始めと為す。名は小白。兄の襄公無道なり。群弟禍の及ばんことを恐る。子糾魯に奔る。管仲之に傅たり。小白莒に奔る。鮑叔之に傅たり。襄公弟無知の弑する所と為り、無知も亦人の殺す所と為る。斉人小白を莒より召く。而して魯も亦兵を発して糾を送る。管仲嘗て莒の道を遮り、小白を射て帯鉤に中つ。小白先づ斉に至りて立つ。鮑叔牙管仲を薦めて政を為さしむ。公は怨みを置きて之を用ゐる。

【第二段】管仲字は夷吾。嘗て鮑叔と賈す。利を分かつに多く自ら与ふ。鮑叔以て貪と為さず。仲の貧なるを知ればなり。嘗て事を謀りて窮困す。鮑叔以て愚と為さず。時に利と不利と有るを知ればなり。嘗て三たび戦ひ三たび走る。鮑叔以て怯と為さず。仲に老母有るを知ればなり。仲曰はく、「我を生む者は父母、我を知る者は鮑子なり。」と。

【第三段】桓公諸侯を九合し、天下を一匡せしは、皆仲の謀なり。一にも則ち仲父、二にも則ち仲父といへり。